

トピックコード	501
トピック題名	「『超高齢社会における孤独・孤立の予防策を考えよう！』」
話題提供者	植田 拓也 先生
所属組織	東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター 副センター長
参加生徒数	12名
トピック内容等	<p>本校の卒業生で、現在は東京都健康長寿医療センター研究所にて研究活動を行っている植田先生をお招きし、講義を実施しました。今回は「講義」というよりもワークショップに近い形式で行われ、90分間にわたり非常に活発な時間となりました。</p> <p>高校生たちは、高齢化社会における「望ましい未来像」を描き、その実現のために今から取り組めることを考える“バックキャスティング”的手法を学びました。その後、グループごとに議論を行い、最後には各グループがアイデアを発表しました。</p> <p>また、探究活動のリサーチクエスチョンとして「高齢社会の課題解決」を設定している生徒も数名おり、彼らが議論をリードしてくれたことで、より充実したグループワークになったようです。講義終了後も、植田先生に積極的に質問したり、連絡先を交換したりする姿が見られ、生徒たちにとって大変有意義な学びの機会となりました。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の孤独は他人事に見えますが、自分の周りにも悩んでいる人がたくさんいる課題だと実感することができました。また、私たちにできることもたくさんあることを知ることができてよかったです。</li> <li>・先生がおっしゃっていた、目標から現状を引いて今ある課題点を絞り出すという考え方を探究でも活用していきたいと思います。今、団地の活性化を目標にグループで活動を行っているのですが、「理想の団地にするには」とグループで話し合ったことで、より明確な将来像を作ることができ今後の探求活動に生かそうと思いました。</li> </ul>
写真	 

トピックコード	502
トピック題名	「うつ病・不安障害の病因解明～子供と大人のうつ病は違うのか？～」
話題提供者	栗原 大河 先生
所属組織	佐賀大学医学部神経生理学分野 助教
参加生徒数	25名

### トピック内容等

うつ病・不安障害の病因解明～子供と大人のうつ病は違うのか？～

授業開始と同時に神経細胞の説明をし考える幅を広げてくれた。

日本ではどんな病気が多いか生徒に投げかけたところ「がん」という答えがでたが実際は、精神及び行動の障害だそうだ。

「うつ病」は仕事・人間関係・何かを失ったとき・更年期時など様々な要因が関係し起こりうるが、これといった症状がないため診断が難しい。ストレスを与えると大人と子供の実験マウスに違いがでた。

(短期間ストレス)大人…不安障害・子供…うつ病 (長期間ストレス)大人…うつ病・子供…うつ病

このことより、子供のがうつ病に罹りやすいということ。人間においても子供のうつ病が増えている。

その背景には時代の変化で「うつ病」と言いやすくなったことも関係しているようだ。

解明されていく病気も多々あるが、うつ病障害はこれといった原因や他の病気と区別する原因物質は見つかってない。

現在うつ病治療の原則は「休息と抗うつ薬」となっている。

後天的な脳の働きが低下で食事が関係しているようだ。2025年5月の実験で豚の肝臓で改善傾向がでた。

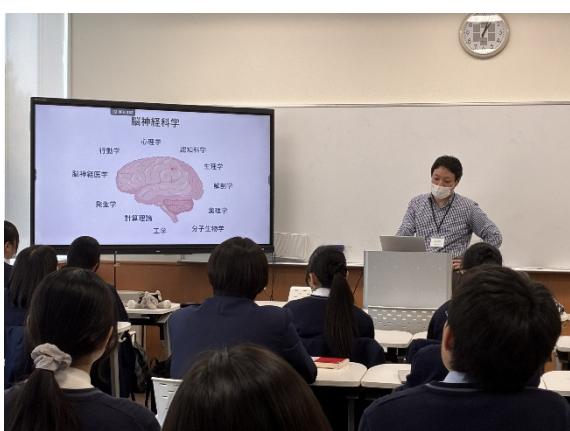
今は海苔で調査中、来年のGWで発表できたらとのことで今から楽しみです。生徒達もグループディスカッションを通じて、いつ自分自身に起こりうるか分からなものなので真剣に意見交換や他者の発表に耳を傾けていた。

### 生徒の感想

・私は子供の自殺問題について調べていて今回のお話も関係あるようなところがあり、特に子供のうつ病を減らすためにはどうすればいいのか考えていくべきだと改めて感じました。うつ病と判断するのが難しいからこそうつ病について知るのは大切だと思いました。大人だから大丈夫みたいなのはよくないと思うし、大人も子供もいつでもうつ病になる可能性があるので他人事だと思わずに考えていきたいなと思いました。

・友達にうつ病になった子がいて、その子のことを少しでも理解しようと思い、この授業を取らせていただきました。グループでうつ病を解明するためにどうすればいいのかという話題について話す時にうつ病という大きなくくりで診断するのではなく、拒食や過食など真反対な状況に陥ることもあるため、そういう小さなくくりで診断したほうが同じ症状同士での共通点が多いのではという案が出て、とてもおもしろい案で納得しました。また、子供と大人のうつ病の違いとして、子供は父母という守ってくれる存在がいるけど、大人は自分で悩みを抱えてしまい、孤独を感じてしまうという違いがあると感じることが出来ました。そして今回の授業でうつ病の深刻さを改めて実感することができました。

### 写真



トピックコード	503
トピック題名	「研究をどのように進めるのか？～先輩研究者の立場から～」
話題提供者	岡 浩太郎 先生
所属組織	北里大学未来工学部 教授
参加生徒数	27名

#### トピック内容等

研究をどのように進めるか？というトピックタイトル。岡先生から自身の経験を踏まえ、中・高生が探究活動をするにあたっての心構えのようなものを非常にわかりやすくレクチャーしてくださったということが全体の印象でした。

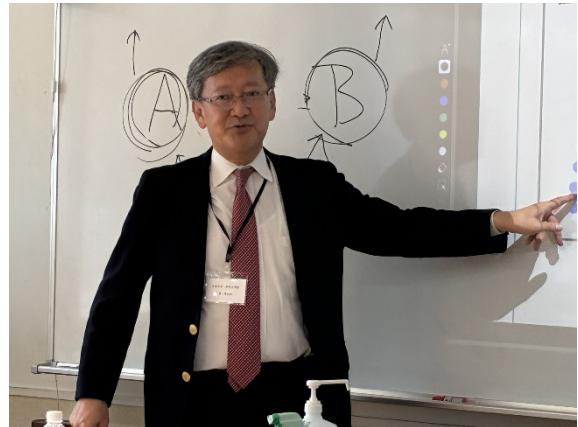
何か 1 つの特別な研究に対する話ではなく、研究全般に通じる考え方、研究をするマインドに関する話は、すでに探究活動を進めている生徒にとっても、これから探究活動を始めようとする生徒にとっても、先行き不安な探究活動を後押ししてくれるものに感じたのではないかでしょうか。

#### 生徒の感想

・探究をするうえで何からアプローチしたらよいか分からなかったけれど、知識がないということはそのいろいろな見方ができるということでもあり、これからいろいろな仮説を立てる余地があるということなので、焦らず色々な方向からアプローチしていけたらいいなと思いました。また、ある知識を持っていてもそれが正しいとは限らないということがよく分かったので、今持っている知識だけが正解だとは思いこまずにいろんな見方ができるようになりたいと思いました。

・研究を進めていく上で、すごくためになりました。研究で自分の欲しくて予想していた結果が出たら喜んで他の結果が出ないで欲しいと思うこともありましたが、色々な方向から分析していくことが大切だと思いました。批判する意識を持つことが研究で大切だとわかったので、発表で批判されても落ち込みます、いい視点だと思って話を聞きたいと思いました。

#### 写真



トピックコード	504
トピック題名	「生命科学におけるデータサイエンス・AI」
話題提供者	鎌田 真由美 先生
所属組織	北里大学 未来工学部 教授
参加生徒数	16名

### トピック内容等

データサイエンスと AI の基礎から、生命科学・創薬への応用まで幅広く学ぶことができた。前半は、画像や文字、音などの情報がすべて数値化してコンピュータに扱われることや、パターンを見つけることで分類や予測が可能になるという仕組みを説明いただいた。Google フォームのアンケートに回答し、その結果がどのように整理されるのかを体験した。さらに、Python を使ってワンホットベクトル化やクラスタリングを体験し、「距離を用いて似ているもの同士がまとまる」という概念を実感した。

後半は、近年の生成 AI を支えるトランスフォーマー技術や、創薬における AI 活用にも触れ、従来 4 年かかっていたリード化合物の最適化が 18 か月まで短縮されるなど、医療分野における AI の活用例を学んだ。

DNA やタンパク質を数値化して扱うバイオインフォマティックスの紹介もあり、データサイエンスが生命科学と強く結びついていることを理解することができた。

### 【生徒の様子】

生徒たちは各自のパソコンでプログラミングを体験し、画像を数値化して似ている画像同士をグループ化するクラスタリングを体験した。自分の操作がそのまま結果として現れるため、楽しそうに手を動かしながら学んでいる様子が見られた。特に、データがツリー構造として可視化される場面では、多くの生徒が興味を示して見入っていた。

### 生徒の感想

・データサイエンスについて詳しく知ることが出来ました。主観的なアンケートを統計データとして表すことに生かせることがたくさんあり、とても勉強になりました。この技術は先生が研究されている医療だけではなく、様々な分野で活かすことができ、社会に役立つと思いました。

・AI を使って薬を作るということを学んだ。AI の学習方法や AI の使い方が面白いと思った。先生は AI による分類を使い人間を分類するということをしている。人間を完全にサンプリングすることは難しくても限りなく近いものを作れる未来を思い浮かべると少しわくわくして自分がいてこの分野に興味を持てた。AI によってのサンプリング、心理学による人間にするアンケート、これからの AI の進歩などこれからが楽しみだ。

### 写真



トピックコード	505
トピック題名	「農作物を護る～農薬は悪なのか？動物からはどう守る？～」
話題提供者	和久 大介 先生
所属組織	東京農業大学 助教
参加生徒数	11名
トピック内容等	<p>本講義では、「作ったもの全てが商品になるわけではない」という現実から、農作物を護るための「農薬」と「獣害対策」の二点を中心にご解説いただいた。</p> <p>一般野菜、特別栽培農産物、有機/オーガニック野菜など、栽培方法による農薬の種類や量の違いを比較した。また、「無農薬」表示が禁止されている背景をご説明いただいた。さらに、殺鼠剤(フルファリン)が治療薬にも使われる例を挙げ、「すべての物質は毒であり、毒でないものはない。毒か薬かは用量で決まる。」というパラケルススの言葉をご紹介いただいた。ADI(人が毎日摂取し続けても、健康への悪影響がないと推定される量)の概念と、農薬がADIよりも低い用量で管理されている仕組みを解説し、「少しでも農薬が使われていたら汚染なのか？」という問い合わせについて、科学的な視点から考えるきっかけを与えてくださった。</p> <p>近年、獣害が顕著になった背景や原因について、「なぜ作物保護学で獣害を扱うのか？」という根本的な問い合わせからご解説いただいた。野生動物の増加はよいことなのかという問題も含め、獣害対策のために知るべき多面的な知識をご提供いただいた。</p> <p>講義の結びに、将来、国際団体での活躍を志す生徒に向け、国際機関で実際に働く方の具体的なキャリアパスについてご紹介いただいた。</p>
【生徒の様子】	<p>専門的かつ身近なテーマに対し、熱心にメモを取りながら聞く様子が見受けられた。</p> <p>講義後には、数名の生徒が積極的に和久先生と連絡先を交換しており、学習意欲の高さと内容への強い関心がみられた。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在熊が人里に出てきてしまうという問題が深刻化している中で、こういったトピックについて学べたのは社会の問題をよく知るうえでとてもいい機会だった。農業で農薬を使う際にまでどういった法律があるのか害獣についてどう考えるべきなのかを学べてとても興味深かった。</li> <li>・無農薬野菜と聞いたらよいものだと思っていたが実際は法律を守っていないなどということを知れた。また動物は守るべきだと思っていたが必ずしもそうではないということを知れた。これから学びに生かしていくたい。</li> </ul>
写真	 

トピックコード	506
トピック題名	「Aging × 多様性」
話題提供者	田中 孝美 先生
所属組織	日本赤十字看護大学 老年看護学 教授
参加生徒数	5名
トピック内容等	<p>多様性の観点から Aging/老いを考える時間を持つことができました。この講座には保護者の方もご参加いただいたので、異なる世代のそれぞれの視点から意見を交換し合える貴重な時間となりました。老いはどちらかといえばマイナスのイメージで語られることが多いと思います。ワークの中では、老いに対する考え方、それが自分の生活の中にあるもので、感じ方や人生の経験の有無で解釈や見方が変わることを確認し、老いることで何かができなくなるのではなく、年齢を重ねたことからチャレンジできるようになったという事例を学びました。</p> <p>生徒からは、「おばあちゃんになっても楽しみたい」「ネガティブに考えていたが、思っている以上に幸せだし、明るい気持ちが状況を変えると思った」といった意見や、看護師を目指す生徒が多く参加していたこともあり「自分の心と家族の心の持ち方、私たちの役割も考えたい」といった意見もありました。保護者の方からは「個人を大事にし、意識を高めることが寿命を長くする」といったご意見や、赴任されていた海外の事例などもお話をいただきました。</p> <p>最後に、Aging は多様な現象であり、身近なところで一人一人の可能性を見出し日常の小さな幸せに目を向けるとよいのではないかと、先生からアドバイスを頂きました。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義前は発表にもあった通り、老化に対してポジティブよりもネガティブな印象の方が強かったものの、資料や実際に働く保護者の方の話を聞くと自分が思うよりネガティブなものではなくポジティブなもので、とても印象に残りました。明るく、楽しく年を重ねることで自分自身の人生をよりよく過ごせることを学びました。</li> <li>今日は人数も少なかったので、周りの人とたくさん意見交換をすることができたのでよかったです。「老い」という概念において、負のイメージが強かったけど、今回のグローバル week を通じて老いについていイメージを持つことができました。</li> </ul>
写真	 

トピックコード	507
トピック題名	「1,000 億円を株で運用した教授の幸せに生きる方法」
話題提供者	山田 隆 先生
所属組織	昭和女子大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科 教授
参加生徒数	36 名

#### トピック内容等

「1000 億円を株で運用した教授の幸せに生きる方法」というテーマであったが、本当にユーモアにあふれる講義で、生徒も教員を楽しみながら株式投資を学べた。資産を増やすには、貯蓄だけでなく、負債や投資を活用することの有効性を具体例で示したり、デトを例にした機会費用の話など、経済理論をわかりやすく教えていただいた。投資については、東日本大震災やコロナショックなどの場面における株価の変動や、任天堂やスペースシャトルなどの例を用いて株式市場の変化など具体的な教えてわかりやすかった。

講義後も生徒が熱心に質問しており、先生の人柄を生徒は理解したようである。

#### 生徒の感想

- ・本当にとても面白かったです！！あまり株式について興味がなかったのですが、今日のお話を聞いてとても興味を持ちました。また、お金を借りるということはあまり良いイメージがなかったのですが、有効的に使えるいいだけとおっしゃっていたのがとても印象的で、将来、投資してみようと思いました。
- ・自身の経験や日常的な具体例を挙げた説明が面白かったです。地震は株価から予測できるとか、良い株の選び方など、関心する話題が多くて、将来的には株価やお金に関する仕事も視野に入れていきたいと思いました。なにより話し方がうまくて僕もこんなふうに楽しそうな話し方をしていきたいなと思いました。来年も参加したいです。

#### 写真



トピックコード	508
トピック題名	「『システムエンジニアの仕事とは』～ドラえもんの世界を実現するのが SE の仕事？～」
話題提供者	平山 敏弘 先生
所属組織	iU 情報経営イノベーション専門職大学 教授
参加生徒数	21 名

### トピック内容等

「システムエンジニアの仕事とは」

生徒に対して、次の物が無かったら、生活できますか？という問い合わせから始まりました。

それは(スマホ・エアコン・PC)です。次にサンデーバンキングは人々の生活の何を変えたかについてです。

その例として現金給付・たんす預金から銀行預金へ変わったことです。また、コンビニエンスストアにおける販売の限界として様々な支払いがコンビニ窓口で可能になった。たとえば、税金の支払いがコンビニで支払いが可能になった。最後にシステムエンジニアになるための情報処理技術者資格例として①IT バスポート②基本情報技術者試験③応用情報技術者試験が有用である。

### 生徒の感想

・自分の中では日本は多少は IT は進んでるみたいなイメージでしたが、データを見てみると日本はすごく遅れていることがわかりました。そして、IT という言葉はよく聞くけれど詳しく学んだことはなかったので将来を考える上でとても大切な講義になりました。

・SE という仕事や何をしているのかなどをあまり知らなかったが、今回の講義でよく知ることが出来ました。IT の仕事にあまり興味がなかったが今回話を聞いて少し興味を持てたしとても興味深かったです。これから先ドラえもんや AI の世界が実現されるかとしないと思うと楽しみだけど使い方を間違えると大変なことになるとわかりました。

### 写真



トピックコード	509
トピック題名	「鯨から見た世界 捕鯨？保鯨？ あなたはどう考える？」
話題提供者	田村 力 先生
所属組織	(一財)日本鯨類研究所 事務局・参事(調査研究担当)
参加生徒数	11名
トピック内容等	<p>内容: まず最初に受講者全員に、鯨を食料として利用することについて、賛成か反対か、その理由をたずねられたあと、答えはないことを強調された。その後、鯨について、色々なこと(鯨の種類、胴体に予想で目・鼻……背びれなどを書き入れる、日本と鯨の歴史、日本の肉類消費事情、日本の食料自給率、日本が目指す持続的商業捕鯨、野生生物と人間社会の問題)について教えて下さいました。最後に、鯨を中心とした 諸々なものの関連を調べることが、探求であり、ご自身が書いて調べたものが、実際に大学受験に使用されたことを紹介し、講義を閉められた。</p> <p>生徒の様子: 生徒は全体としてある程度積極的に参加し、楽しんでいるようであった。終盤生徒から、南極海での鯨類調査に参加されたときの様子、鯨の寿命、また、その調べ方について質問があった。</p> <p>実験: 鯨の音の捉え方は、下顎で音を聞き取りますが、実際にそれを体験・体感させてくれて、大いに生徒は感動していました。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クジラという、今は日本人になじみのない動物が、どのように親しまれ、どのように生きているのかを楽しんぐ学ぶことができました。骨伝導でおでこから音を聞くというのも、驚きの体験でした。百聞は一見に如かずという言葉がぴったりな体験でした。</li> <li>・今回の講義でクジラに対するイメージが大きく変わりました。今まで捕鯨は難しいものだと思っていたが日本では昔からやっていたことに驚きました。もともと捕鯨には反対していましたが今日の講義を受けて自分らが抱える食糧問題についてもっとしっかり考えることが重要だと気付きました。</li> </ul>
写真	 

トピックコード	510
トピック題名	「漢方薬を正しく理解していますか？～明日から話したくなる漢方薬の正体～」
話題提供者	伊藤 直樹 先生
所属組織	北里大学・薬学部・東洋医学総合研究所・漢方臨床研究室 講師
参加生徒数	20名

### トピック内容等

今回の講義を通して、漢方についての理解を大きく深めることができた。漢方は日本の伝統薬であり、植物・動物・鉱物など、さまざまな自然由来の生薬を組み合わせて作られていることを学んだ。また、中医学で用いられている薬は中医薬と呼ばれ、漢方とは区別されることも知った。講義では実際に漢方薬を種類ごとに分けて観察し、一部を口にしてみる体験も行った。葉や果実など、まったく違う性質をもつ材料が混ざり合って薬が作られていることを実感し、それが非常に個性的である点が印象深かった。さらに、多くの生薬を組み合わせることで、一つの効果が生まれていることにも気づかされた。

また、漢方エキスは白湯に溶かして飲むことでより効果が高まるという実践的な知識も得ることができた。

講義全体を通して、これまで抱いていた漠然としたイメージが払拭され、漢方に対して親近感を持つようになった。今回は北里大学の附属を見越して行われた授業であり、大学生が普段どのような授業を受けているのかを知る良い機会にもなった。薬学部への進学を考えている生徒にとって、貴重な高大接続の経験であり、講義を担当した大学側にとっても高校生と交流する良い機会になったと感じた。今回の講義は双方にとって満足度の高い学びとなった。

### 生徒の感想

・父親が薬剤師でこの講座を受ける前に漢方について教えていただいたので、いくつか知っている内容のものもあり知識が定着しました。漢方が中国の薬というわけでないことは初めて知り、とても興味深かったです。生薬をみたりかじったりできたのがとても良い経験になりました。講義の内容も非常にわかりやすく説明していただき漢方に興味がわくきっかけになりました。

・もともと薬や、薬学部に興味があって今回のGWに参加しました。あまり漢方薬についての知識はなかったのですが、事前課題をやり、お話を聞いて漢方薬についてよくわかりました。沢山のお話を聞いて、もっと漢方薬について知りたいと思ったので家に帰ったら調べてみようと思います！親戚に薬剤師がいるので、会ったら薬についてもっと話してみます。今回のお話を聞いてより一層薬学についての興味が湧きました。まだまだ進路は決まってないですが、薬学部行きたいな～と思っているので、あと3年間いろいろ頑張ってみます！

### 写真



トピックコード	511
トピック題名	「宇宙から国や地域の森林を観察しよう」
話題提供者	関山 純子 先生
所属組織	地域環境科学部 生産環境工学科 教授
参加生徒数	7名

#### トピック内容等

衛星やドローンで取得した地表データを分析する「ジオデータサイエンス」について紹介し、森林の変化を衛星写真から読み取る授業を行った。衛星リモートセンシングでは、植物が赤や青の光を吸収し、近赤外線を強く反射する性質を利用して、NDVI(植生指数)から森林の密度や分布を可視化できることを解説。

森林資源は国の経済と密接に関わり、カーボンクレジットや REDD+など、森林保護を経済的に促す国際的取り組みが進む背景も紹介された。生徒は各国(ブラジル・日本・カナダなど)の森林変動を調べ、増減の理由と地域の産業との関係を考察し、衛星画像の読み取りをもとに3分ほどの発表を行った。

#### 生徒の感想

- ・自分は環境には興味があっても、データや工学には関心がないと思っていましたが、今日お話を聞いて想像以上に面白く、自分の興味関心に勝手に縛りを設けてしまっていたんだなあと思いました。大学で学ぶ内容にも参考にしようと思いました。
- ・森林はどの国でも減少していると聞いて危機感を感じた。世界の森林の減少などを一目でわかるサイトを知ってよかったです。衛星の仕組みを知れて面白かったです。

#### 写真



トピックコード	512
トピック題名	「未来の自分をイメージしよう:スタンフォード大学「ライフデザイン」入門」
話題提供者	並木 有希 先生
所属組織	東京家政大学人文学部 教授
参加生徒数	9名

### トピック内容等

「未来の自分をイメージしよう:スタンフォード大学『ライフデザイン』入門」をテーマに、並木有希氏による講義とワークショップを実施した。冒頭では、日本とアメリカの生活の違いとして、物価の高さ(例:水1本1000円以上)や自動運転タクシーの普及状況が紹介され、生徒は世界の変化に触れた。その後、スタンフォード大学の授業を参考に、自分のエネルギーチェックや現在の学び・生活状況を整理するワークを行った。

続いて、これからの5年間の「A:このままの未来」を描く活動に取り組み、自分の進路や生活の方向性を具体的に考える機会とした。最後に、今年から来年にかけて自分が何に取り組むべきかを考える時間が設けられ、講義がまとめられた。

(生徒の取り組み)

生徒は講義に集中して耳を傾け、プリントに丁寧に記入しながら自分自身と真剣に向き合っていた。「このままの未来」を描く活動では、一人ひとりが静かに思考を深め、将来を具体的にイメージしようとする姿が見られた。終始落ち着いた雰囲気で意欲的に取り組む生徒が多く、主体的に学ぶ姿勢が印象的であった。

### 生徒の感想

・今回の講座で普段考えることがないような自分の今の状況や状態、そこから考える自分がいまするべきことやそうなったときの自分のやりたいことなどについて深く考えることができてとても有意義な時間になりました。また、最後に行っていた白か黒ではなく無数のグレーという選択というのがとてもこれから自分の進路などを考えるうえで重要なだなと思うことができました。

・分はとりあえず今はひたすら勉強をするべきとだけ思っていたけど、今回の話を聞いて、自分はすごくスケールの小さい想像をしていたなと思った。何をするために勉強をするのか、それから何をするのかを考えるのが重要だということがわかった。

### 写真



トピックコード	513
トピック題名	「『 海外の大学も進路の選択肢に入れてみよう ! 』」
話題提供者	伏木 真那実 先生
所属組織	トフルゼミナール カウンセラー
参加生徒数	7名

### トピック内容等

このワークショップでは、伏木さんの話・クイズに参加した後に、海外で学ぶ卒業生 2 名、社会人 1 名より各国の学習環境と生活について報告があった。米国では専攻変更やコミュニティカレッジから四年制大学への編入制度が柔軟で、学生はホームステイや課外活動を通して充実した生活を送っている。

英国では International Year One を経て学位取得につなげる制度があり、伝統的な街並みやスポーツ文化が学生生活の特色となっている。ニュージーランドでは 1 年の有給インターンを含む課程があり、学生同士で支え合いながら落ち着いた環境で生活できる点が紹介された。

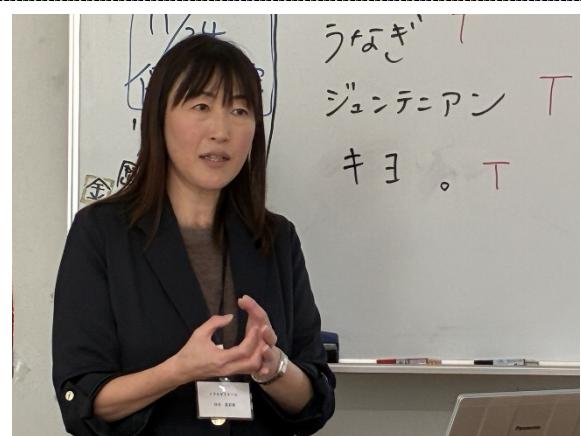
また、各国で学位年限や進学ルートが異なり、米国・カナダは 4 年制中心、英国・豪州は 3 年制に Foundation や Diploma を組み合わせる形が一般的との説明があった。進学に必要な要素として英語力、GPA、エッセイ、活動歴が挙げられ、英語試験では 2026 年から TOEFL の大幅変更が予定されている。

授業料の上昇、奨学金制度、OPT や就労条件など、情報の把握が重要であることが強調された。

### 生徒の感想

- ・海外大学の大学の入試方法など日本の高校にいたらわからない知識などをしれてよかったです。海外に興味が少しだけあつただけですが、今日の講義をきいて視野に入れたいと思いました。
- ・海外大学について自分個人では知ることのできない情報をたくさん得られてとても良い機会になりました。また国によって違うことがたくさんあることがわかったのでこれからの調べに活用してきたいです。

### 写真



トピックコード	514
トピック題名	「テーマに正解はない！～”自分の好き”で実現した、私のトビタテ留学～」
話題提供者	高1、2 伊藤 純 先生、今井 真愛 先生、田坂 亮輔 先生、野沢 櫻 先生
所属組織	順天高等学校
参加生徒数	37名

### トピック内容等

イオンアンバサダー活動報告…イオン1%財団主催によるイオンアンバサダー日本・中国活動に参加した10名の代表者3名(高1森、長本、栗田)がその活動内容を報告した。

「青少年赤十字東京ジャカルタ交流プログラム」に参加された、高1の八重樫さんの発表もあった。

今年の夏季休業中には、トビタテ！留学 JAPAN で海外に挑戦した順天生による講演を行った。

多くの生徒や先生方が参加し、発表に真剣に耳を傾ける姿がとても印象的でした。トビタテ！留学 JAPAN には毎年多くの順天生が応募しているため、今後もその挑戦の輪がさらに広がっていくことを願っている。

トビタテ留学 Japan 活動報告…

①トビタテ留学 Japan の説明(文科省主催の日本の高・大学生対象の留学促進キャンペーン)

②2025年の参加者(4名)の各活動内容発表

(高1野沢:貧困層の子供たちが本当に必要としている支援は何なのか@セブ島、

高1田坂:テニス技術の向上@オーストラリア、高2今井:アイヌ語保存のために、マオリ文化保存方法の学習@NZ、高2伊藤:インラインスケート技術の向上@ドイツ

③トビタテ留学 Japan に選ばれるための秘訣(一時書類審査では「目的」と「計画」を具体的にすることが一番大切、など)

④参加者の留学に対する意識(話し合い)について、参加者4名が中心となって発表した。

### 【生徒の様子など】

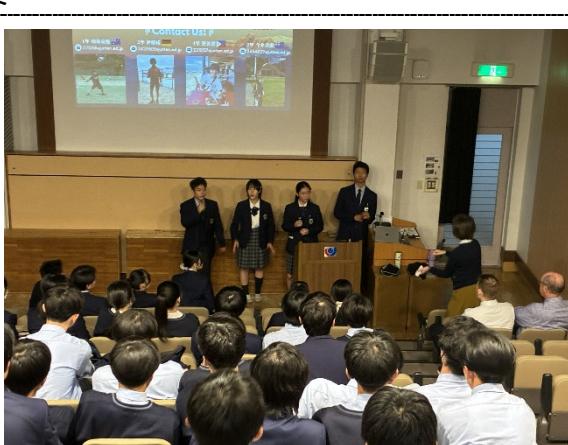
同じ世代の生徒が、明確な興味と目的を持って留学している姿に、興味を持ちながら傾聴していた。特に、来年度トビタテ留学に参加することを希望している生徒にとってはとても有意義な発表であった。

### 生徒の感想

・私もトビタテのことを考えて、とても参考になりました。今の自分には、まだまだ熱意や現地でやりたいことなどが全然明確ではないのですが、自分としっかり向き合って何をしたいのか、そして自分の性格をよく理解しなければいけない必要があるなと感じました。それを応募書にたくさん書いて、少しでも採用してもらえるように頑張ります。

・友達が話題提供者だからと言う理由で参加したのですが、結果的にはそれ以上の成果をもらうことができました。探求の意欲が高まったし、友達へのリスペクトがさらに高まりました。高校生活の中ではトビタテに挑戦するのは考えていないのですが、大学に進学してから考えてみるのも良いのかなと思いました。

### 写真



トピックコード	515
トピック題名	「仕事とクリエイティビティ～新しいものを「創る」取り組み～」
話題提供者	武内 賢太 先生
所属組織	goyemon Inc. COO / Conceptor
参加生徒数	22名

### トピック内容等

「ものを作る」人生を考えたことがあるだろうか。こういうものがあつたらいい、こういうものを作りたいと、子どもの頃はよく考えたもので、絵にしたり年度でつくったりした。だが、私はなぜかものをつくる仕事には就かなかった。その発想がなかったといつてもいい。世間の多くの人もきっとそうで、ものを使う側にはいるけれども、ものをつくる側にはいかない。ものをつくることの難しさを知っているからだと思う。

今回お招きした goyemon Inc.の Kenta 氏は、ものをつくることが楽しい、ものを作ることを遊びの延長でやっていると言った。実はとても綿密に計画を立て、リサーチして、途方もない時間をかけてものをつくっているのだが、それが楽しいと言う。充実感があると言う。ものを作れない人間からすると、とんでもなくうらやましい。

ものをつくることにはリスクがある。楽しいことを仕事にしないという人もいる。しかし、楽しみながら、誰にでもできるわけではないものづくりの仕事をしているという Kenta 氏が、とても輝いてみえた。生徒も嬉々として質問したり、自分のアイディアを伝えたりしていた。進路は決してひとつではない。一人でも多くの生徒がものをつくる自分という未来を思い描いてくれたなら、このトピックは大成功だと思う。

### 生徒の感想

・私は売買やマーケティングの方に興味があり、学校で行われている探求の授業でもものの売れ行きやどのような商品を人は買いたがるのかなどについて調べていて、今日の講義を聞いて凄いこう人から共感を得られる、ストーリーのある商品が売れるんだなって感じました。本日の講義で持ってきてくださった雪駄とスニーカーのコラボの作品も多少値段が高くてちゃんとはきやすさや、作り、伝統工芸などと言ったさまざまなもので考えて、作られているのが数分で伝わり、凄いなって感じました。また、好きなことを仕事にするということが実現できていて、私は好きなことはないんですけど、普通の会社員として働きたくはないみたいな感じですごく色々進路で迷っていたので武内さんのお話を聞かることができよかったです。

・発想力がとてもすごくて、好きなことを仕事にしているのがかっこいいと思いました。今は世の中に無いものでも、技術が発展してニーズがあれば、実現するのだなと思って未来が楽しみになりました！

### 写真

